

経済 TOPICS

No. 234

(2024 年 8 月 23 日)

景気ウォッチング（要旨）

日本 … 生産、設備投資、輸出が横這い圏内で推移するなか、個人消費が底堅い動きとなったことから、全体としては緩やかな回復の動きが続いている。消費者物価は、エネルギー価格の上昇から緩やかに上昇している。この間、海外での軍事紛争の長期化、中国経済の停滞、米国大統領選など、先行き不透明感の強い状態が続いている。

米国 … 個人消費、設備投資、生産が底堅く推移していることから、全体としては緩やかな回復を続けている。この間、中古住宅販売は低調が続く、労働需給は緩和傾向にあり、消費者物価は前年比上昇幅が緩やかに縮小している。

（参考）物価動向

＜日本＞ 生鮮食品を除く食料価格は鎮静化しているものの、エネルギー価格が上昇したことから、緩やかに上昇している。この間、サービス価格の上昇圧力と価格転嫁の動きは続いている。

＜米国＞ 人件費の上昇に伴うサービス価格の上昇圧力は続いているものの、食料及びエネルギーを除く商品価格が小幅ながら下落していることから、全体としては前年比上昇幅が緩やかに縮小している。

（注）本稿は、8 月 23 日時点で取得可能なデータに基づき作成。



京都フィナンシャルグループ

京都総研コンサルティング